

.防火活動

茅葺き屋根と木造の壁を持つ荻町の合掌造りの家は、火に対して非常に脆弱です。過去には、ある建物で火災が発生すると近くの家や村全体に延焼する危険が高く、前世紀には実際に複数の大火が発生しています。住民はこうした災害を防止すべく協力し、夕方に交代で村をパトロールして、近所の人々に可燃物に注意するよう呼びかけています。荻町の地域防火活動で最も有名なのは、毎年行われる、約 50 基の放水銃の点検です。それらは合掌造りの家の間のあちこちにある三角形の小屋の中に設置されており、その両側の家の住民が共同で管理しています。装置のバルブを開けると、建物の間に水のカーテンを作ることができ、ある家から別の家への延焼を防ぐことができます。荻町城跡展望台からの眺める、通常秋の中頃に行われる放水銃の一斉点検の様子は印象的です。